

日本企業の知的財産部門における生成 AI 活用事例

Felo Deep Research

1. 日本企業の知的財産部門における生成 AI 活用事例

1.1 レゾナックの知的財産部門における生成 AI 活用

1.1.1 主な生成 AI ツール

1.1.1.1 Chat IP

レゾナックは、生成 AI を活用した特許要約作成ツール「Chat IP」を導入しています。このツールは、特許文書の要約版を生成することで、特許情報の読み込み時間を大幅に短縮します。研究開発者が特許情報を迅速に把握できるようになり、業務効率が向上しています[1][13]。

1.1.1.2 ai-PAT

「ai-PAT」は、日本 IBM との共同開発による特許可読性向上システムです。このツールは、特許文書の理解を容易にし、研究開発者の負担を軽減します。2019 年に開発され、以降、対象国の拡大や翻訳対応などの改良が進められています[1][13]。

1.1.1.3 ai-SRT

「ai-SRT」は、レゾナックが自社開発した類似順ソート AI システムで、Selective Dissemination of Information (SDI) に対応しています。このツールは、自社に関連する特許公報を効率的に配信し、研究開発者が関連特許を見逃すリスクを低減します[1][13]。

1.1.1.4 Chat Resonac

「Chat Resonac」は、旧昭和電工と旧日立化成が蓄積してきた資料を生成 AI を活用して対話形式で利用可能にする社内システムです。このシステムにより、ベテラン社員だけが把握していた資料に若手社員もアクセスできるようになり、世

代間・部門間の知識共有が促進されています[3][14]。

1.1.2 活用効果

1.1.2.1 特許読解の効率化

生成 AI ツールを活用することで、特許文書の可読性が向上し、研究開発者が特許内容を迅速に理解できるようになりました。これにより、特許読解にかかる時間が大幅に短縮されています[13][15]。

1.1.2.2 特許調査の効率化

「ai-SRT」や「Chat IP」などのツールを活用することで、特許調査の効率が向上し、関連特許の検索や整理が迅速に行えるようになりました[13][15]。

1.1.2.3 知財リスクの低減

適切な知財監視システムと生成 AI ツールの組み合わせにより、知財リスクの最小化が実現されています。これにより、競合他社の特許動向を迅速に把握し、リスクを回避することが可能となっています[13][15]。

1.1.2.4 グローバル特許網構築の加速

生成 AI ツールを活用することで、グローバルでの特許網構築が加速しています。特に、翻訳対応や多国籍特許の調査が効率化され、国際的な知財戦略が強化されています[15][18]。

1.1.2.5 知財解析（IP ランドスケープ）の強化

特許情報を分析・可視化することで、研究開発戦略や経営戦略に活用されています。これにより、知財解析（IP ランドスケープ）の精度が向上し、企業の競争力が強化されています[13][19]。

1.1.3 今後の展開

レゾナックは、生成 AI のさらなる活用を目指し、自社開発、共同開発、商用 AI ツールの導入を進めています。特に、知財業務の効率化と新たな価値創造を実現するための取り組みを強化しています[13][20]。

1.2 Tokkyo.Ai 株式会社の「生成 AI Plus」による特許出願依頼文作成

1.2.1 背景と課題

特許出願業務は、専門的な知識と経験が求められるため、多くの企業が外部の弁理士に依頼しています。しかし、出願依頼文の作成には多大な時間と労力が必要であり、企業のリソースに大きな負担をかけていました[21][22]。

1.2.2 「生成 AI Plus」の概要

1.2.2.1 主な機能

「生成 AI Plus」は、ChatGPT-4o を実装した特許 AI ツールで、特許出願依頼文の作成を支援します。このツールは、発明届や発明提案書といった出願に関するフォーマットを自動生成する機能を備えています[23][24]。

1.2.2.2 特徴

「生成 AI Plus」は、他の生成済み項目や出願済みの特許を参照しながら記載するため、精度が大幅に向上しています。また、AI 検索機能により関連する特許文献を自動的に参照し、効率的な文書作成を実現しています[23][25]。

1.2.3 時間短縮効果の具体的事例

1.2.3.1 作業時間の削減

従来約 15 時間かかっていた出願依頼文の作成と簡易特許調査が、「生成 AI Plus」を活用することで 1～2 時間以内に完了するようになりました[21][28]。

1.2.3.2 時間短縮率

このツールの導入により、約 90%の時間短縮が実現されました[21][29]。

1.2.3.3 効率化のメカニズム

AI 検索機能が関連する特許文献を自動的に参照し、精度の高い依頼文を生成することで、効率的な文書作成が可能となっています[21][30]。

1.2.4 導入のメリット

「生成 AI Plus」を導入することで、業務効率の向上、コスト削減、調査の抜け漏れ防止、専門家と研究開発部門のコミ

コミュニケーション改善など、多くのメリットが得られています[23][30]。

1.3 AI Samurai の特許申請支援システム

1.3.1 会社概要

AI Samurai は、特許申請支援システムを開発・販売する企業で、特許調査や文書作成の効率化を目的とした AI ツールを提供しています[32][33]。

1.3.2 主なサービス

1.3.2.1 AI Samurai ONE

「AI Samurai ONE」は、特許の検索・評価・作成を統合したオールインワンパッケージで、特許取得までをワンストップでサポートします[34][41]。

1.3.2.2 AI Samurai DELTA

「AI Samurai DELTA」は、日・米・中 3 カ国対応版のサービスで、多言語対応や自動翻訳機能を備えています[36][37]。

1.3.2.3 みんなの特許

「みんなの特許」は、低価格で特許調査と出願書類作成をサポートするサービスで、特許調査結果と特許出願書類草案を最短 3 営業日で納品します[38][40]。

1.3.3 技術的特徴

1.3.3.1 特許調査の革新

AI Samurai は、検索式不要で特許データベース全体を調査し、数十秒で結果を提供する高速調査機能を備えています[39][40]。

1.3.3.2 特許文書作成支援

「AI 特許作成」機能では、特許書類の「要約」「特許請求の範囲」「明細書」を約 3 分で出力することが可能です[39][41]。

1.3.3.3 パテントマップ機能

企業や技術の特許情報を数値化して可視化するパテントマップ機能により、特許情報の傾向を直感的に把握できます[41].

1.3.4 導入の障壁と対策

AI Samurai 社は、心理的障壁や組織的障壁に対応するため、UI の改良や導入フローの説明資料の充実などの対策を実施しています[35][42]。

1.3.5 知財業界の DX 化への貢献

AI Samurai は、知財業界の DX 化を推進するため、活用事例やホワイトペーパーを公開し、知財担当者が AI 導入を検討する際の一助となることを目指しています[42].

2. 生成 AI を活用した特許出願が業界全体に与える影響

2.1 特許出願プロセスの変革

2.1.1 出願効率の向上と費用削減

生成 AI の導入により、特許出願プロセスは大幅に効率化され、従来の手間やコストが大幅に削減されています。例えば、従来の特許調査では、国内調査で 5 万円～50 万円、海外調査ではその 1.5 倍～2 倍の費用がかかることが一般的でしたが、生成 AI の活用によりこれらのコストが大幅に削減されています[82]。生成 AI は、膨大な特許データを短時間で処理し、関連性の高い特許を迅速に特定する能力を持っています。これにより、調査担当者の作業負荷が軽減され、調査時間が数日から数時間に短縮されるケースもあります[88]。

また、生成 AI を活用した特許出願の効率化は、特許出願件数の増加にも寄与しています。例えば、ソフトバンクグループでは、生成 AI を活用して 2023 年に 1008 件もの特許を出願しました。このような大量出願は、生成 AI による効率化がなければ実現困難であったとされています[66][76]。

さらに、生成 AI は特許出願プロセス全体の迅速化を可能にし、特許庁への提出までの時間を短縮します。これにより、企業は競争環境において迅速に技術的優位性を確立することが可能となります[81]。

2.1.2 特許文書作成の自動化

生成 AI は特許文書作成の自動化においても重要な役割を果たしています。特許出願書類には、発明の詳細な説明、請求の範囲、図面などが含まれますが、これらの作成は従来、専門的な知識と多大な時間を要していました。生成 AI は、これらの文書を迅速かつ正確に生成する能力を持ち、特許出願プロセスを大幅に効率化します[75]。

例えば、Tokkyo.Ai 株式会社が提供する「生成 AI Plus」は、特許出願に必要な依頼文や発明提案書の作成を支援し、従来 15 時間程度かかっていた作業を 1～2 時間に短縮することに成功しました[6][21]。このツールは、類似特許を自動的に参照しながら高精度な文書を生成するため、特許文書作成の負担を大幅に軽減します[22]。

また、AI Samurai の「AI 特許作成」機能では、特許文書の「要約」「特許請求の範囲」「明細書」を約 3 分で出力することが可能です。この機能により、特許文書作成の効率が飛躍的に向上し、特許出願の迅速化が実現しています[39]。

2.1.3 先行技術調査の高度化

生成 AI は、先行技術調査の高度化にも寄与しています。従来、特許調査は膨大な時間とリソースを必要とし、特許文献の検索や分析には専門的なスキルが求められていました。生成 AI は、特許文献の自然言語処理と機械学習を組み合わせることで、検索精度を高め、調査の効率化を実現しています[39][88]。

例えば、AI Samurai は、特許の請求項や要約などの自由記述テキストから自動的に検索式を構築し、数十秒で国内外の特許情報を調査することが可能です。このツールは、特許調査の迅速化と精度向上に寄与し、企業が市場投入までの時間を短縮することを可能にしています[39]。

さらに、生成 AI は、特許調査結果を視覚的に表現するパテントマップの生成や、関連性の高い特許のスコアリングを行うことで、調査結果の解釈を容易にします。これにより、特許調査の効率が向上し、企業はより戦略的な特許取得が可能となります[88]。

2.2 競争環境への影響

2.2.1 特許戦略の変化

生成 AI の活用により、企業の特許戦略は大きく変化しています。特に、生成 AI を活用した特許出願は、戦略的な出願、加速審査、早期公開を効果的に活用することで、競争環境において優位性を確立する手段として注目されています[81]。

例えば、OpenAI は、特許出願と技術的マイルストーンを緊密に調整し、特許公開のスピードを大幅に短縮しています。このような早期公開の特許は、戦略的な先行技術として機能し、他社の出願を抑制する可能性があります[86]。

また、ソフトバンクグループでは、生成 AI を活用して特許出願プロセスを効率化し、短期間で大量の特許を出願することで、競争環境における技術的リーダーシップを確立しています[66][76]。

2.2.2 技術的優位性の確立

生成 AI を活用した特許出願は、企業が技術的優位性を確立するための重要な手段となっています。例えば、AI データ社の「AI 孔明™」は、膨大な特許データを高速かつ正確に分析し、競合の動向や技術の空白領域を可視化することで、最適な特許出願戦略を策定する支援を行っています[43][84]。

さらに、生成 AI は、特許出願プロセス全体を効率化することで、企業が迅速に技術的優位性を確立することを可能にします。例えば、特許調査や文書作成の効率化により、企業は競争環境において迅速に新技術を市場に投入することができます[39][88]。

2.2.3 業界構造の変化

生成 AI の普及により、業界構造にも変化が生じています。特に、AI 関連の特許出願が増加しており、第 3 次 AI ブームの特徴であるディープラーニングに代表されるような機械学習技術に関する特許が大幅に増加しています[85]。

このような特許出願の増加は、AI 技術を持つ企業と持たない企業間の格差を拡大させる可能性があります。また、生成 AI を活用した特許出願は、特許の質と価値に関する議論を引き起こし、特許審査プロセスや評価基準にも影響を与える可能性があります[86]。

2.3 中小企業とスタートアップへの影響

2.3.1 参入障壁の低下

生成 AI の活用により、中小企業やスタートアップにとっての特許出願の障壁が低下しています。例えば、AI データ社の「AI 孔明™」は、生成 AI が社内の技術や製品のデータを分析し、特許を提案して出願をサポートするサービスを提供しています。このようなサービスは、優れた技術を持ちながら知的財産としての活用が遅れている中小企業にとって大きな支援となります[87]。

また、生成 AI を活用することで、特許出願に必要なコストや時間が削減され、中小企業やスタートアップが限られたリソースでも特許戦略を構築できるようになります[82]。

2.3.2 競争力の向上

生成 AI は、中小企業やスタートアップの競争力向上にも寄与しています。例えば、デザインを手がけるスタートアップは、生成 AI を使用して独自の製品デザインを生成するシステムを開発し、特許出願ではこのシステムが業界のトレンドを反映し、他社とは異なる新しいデザインを生み出す方法を詳細に説明する文書を生成 AI が支援しました[83]。

このように、生成 AI を活用することで、中小企業やスタートアップは独自の技術や製品を迅速に特許化し、市場での競争力を高めることが可能となります。

2.3.3 イノベーションの加速

生成 AI の活用により、中小企業やスタートアップのイノベーションサイクルが加速しています。例えば、環境技術に関する新しい発明を行った企業は、生成 AI を利用して廃棄物を再利用するプロセスを設計し、特許出願が非常にスムーズに行われ、短期間で特許を取得することができました[83]。

このように、生成 AI は、中小企業やスタートアップが新しい技術や製品を迅速に市場に投入することを可能にし、イノベーションの加速に寄与しています。

2.4 特定業界への影響

2.4.1 医療分野

生成 AI は、医療分野においても特許出願の効率化と競争優位性の確保に貢献しています。例えば、ある医療技術企業は、生成 AI を使用して医療画像解析の新しいアルゴリズムを開発し、従来の手法では特定が難しかった病変を、自然言語処理技術を用いて病名や症状のデータと統合することで、より正確な診断を可能にしました[83]。

この特許の出願に際して、生成 AI は同様の技術を持つ先行特許を分析し、自社の独自性を強調する文書を生成しました。この結果、特許庁から特許が取得され、医療分野での競争優位を確保することに成功しました[83]。

2.4.2 教育分野

教育分野でも、生成 AI を活用した特許出願が進んでいます。教育テクノロジー企業は、生成 AI を用いて個別学習プログラムを作成するシステムを開発し、特許出願では生成 AI が提案したクレームが特に注目されました[83]。

このシステムは、他の特許と比べて技術的な進歩性や新規性を強調し、適切な表現で文書を作成することで、特許庁に出願した際に迅速に特許が承認され、競争力が向上しました[83]。

2.4.3 製造業

製造業においても、生成 AI は特許出願プロセスの効率化とコスト削減に寄与しています。特に、特許調査の各段階で生成 AI の活用が進み、効率化とコスト削減を実現しています[82]。

例えば、特許調査における生成 AI の活用により、膨大な数の特許データを短時間で処理し、関連性の高い特許を迅速に特定することが可能となっています。このような効率化は、製造業各社が知財戦略を強化し、競争力を向上させるための重要な手段となっています[88]。

2.5 新たなビジネスモデルの創出

2.5.1 知財管理ソリューション

生成 AI の普及により、知財管理に関する新たなビジネスモデルが創出されています。例えば、AI データ社の「AI 孔明™」は、膨大な特許データを高速かつ正確に分析し、競合の動向や技術の空白領域を可視化するサービスを提供しています[43][84]。

このような知財管理ソリューションは、企業が最適な特許出願戦略を策定し、知財競争力を強化するための重要なツールとなっています。

2.5.2 特許情報分析サービス

生成 AI を活用した特許情報分析サービスも新たなビジネスモデルとして登場しています。例えば、日立製作所の「特許情報分析サービス」は、特許情報を分かりやすいグラフで可視化し、特許業務の専門スキルを持たない人でも容易に分析を行うことができるサービスです[54][60]。

このサービスは、特許調査や分析の効率化を実現し、企業が迅速に技術動向を把握し、戦略的な意思決定を行うことを可能にします。

2.5.3 知財の収益化支援

生成 AI は、特許の価値を最大化するための収益化支援にも活用されています。例えば、AI データ社の「AI 孔明™」は、特許のライセンス契約や売却の最適な戦略を提案することで、企業の知的財産を有効活用し、新たな収益源の創出を支援しています[43][84]。

このような収益化支援は、企業が知的財産を戦略的に活用し、競争力を強化するための重要な手段となっています。

2.6 長期的な影響と課題

2.6.1 イノベーションサイクルの加速

生成 AI を活用した特許出願の増加により、イノベーションサイクルが加速しています。特許出願から公開、公告までの期間が短縮されることで、技術の進化スピードが加速し、市場競争が激化する可能性があります[86]。

2.6.2 特許の質と価値の変化

生成 AI による大量の特許出願が可能になることで、特許の質と価値に関する議論が生じる可能性があります。量的な増加が必ずしも質的な向上につながるとは限らず、特許の評価基準や審査プロセスにも影響を与える可能性があります[86]。

2.6.3 法的・倫理的課題

生成 AI を活用した特許出願の増加に伴い、著作権侵害や機密情報の流出などの法的・倫理的課題も浮上しています。特に、生成 AI が学習したデータに基づいて生成した内容が他者の知的財産権を侵害する可能性があるため、慎重な対応が求められています[63]。

3. 結論

3.1 生成 AI の知的財産分野への影響の全体像

生成 AI は、知的財産分野において革新的な変化をもたらしている。特許出願プロセスの効率化、特許文書作成の自動化、先行技術調査の高度化など、従来の業務プロセスを大幅に改善する技術として注目されている。これにより、企業は知的財産戦略をより迅速かつ効果的に実行できるようになり、競争力を強化することが可能となった。

例えば、レゾナックの「Chat IP」や「ai-PAT」などのツールは、特許文書の読解や調査を効率化し、特許情報の活用を促進している[1][13]。また、Tokkyo.Ai 株式会社の「生成 AI Plus」は、特許出願依頼文の作成時間を 90% 近く削減することで、知財部門の業務効率を大幅に向上させた[6][21]。これらの事例は、生成 AI が知的財産分野においてどのように活用されているかを示す具体的な例である。

さらに、AI 孔明™のような統合知財管理ソリューションは、特許戦略の最適化や技術トレンドの予測、知財の収益化を支援することで、企業の競争力を強化している[43][44]。これにより、企業は膨大な特許データを効率的に分析し、競合の動向や技術の空白領域を可視化することが可能となった。

3.2 生成 AI がもたらす業務効率化とコスト削減

生成 AI の導入により、特許出願プロセスの効率化が進み、コスト削減が実現されている。従来、特許出願には多くの時間と費用がかかっていたが、生成 AI の活用によりこれらの課題が解消されつつある。

例えば、Tokkyo.Ai 株式会社の「生成 AI Plus」は、特許出願依頼文の作成において、従来約 15 時間かかっていた作業を 1~2 時間に短縮し、約 90% の時間削減を実現した[21][29]。また、AI 検索機能が関連する特許文献を自動的に参照することで、精度の高い依頼文の作成が可能となり、業務効率が大幅に向上した[6][22]。

さらに、AI Samuraiの特許調査システムは、数十秒で国内外の特許情報を調査し、結果を提供することで、手作業での調査と比べて大幅な時間短縮を実現している[4][39]。これにより、特許調査の効率化が進み、企業は迅速に新技術を市場に投入することが可能となった。

3.3 競争環境への影響と技術的優位性の確立

生成AIの活用は、企業の競争環境にも大きな影響を与えている。特許戦略の変化や技術的優位性の確立、業界構造の変化など、生成AIは競争環境を再定義する力を持っている。

例えば、OpenAIの特許活動は、製品リリースと密接に連動しており、特許出願と技術的マイルストーンを緊密に調整している[81][86]。このような早期公開の特許は、戦略的な先行技術として機能し、生成AI市場の拡大が進む中で他社の出願を抑制する可能性がある[81][86]。

また、ソフトバンクグループの孫正義会長兼社長は、生成AIを活用して特許を大量に出願し、技術的リーダーシップを確立している[66][76]。これにより、通信・半導体・AI事業の拡大につながる特許戦略を展開している。

3.4 中小企業とスタートアップへの恩恵

生成AIは、中小企業やスタートアップにとっても大きな恩恵をもたらしている。特許出願の障壁を低下させ、競争力を向上させることで、イノベーションの加速を支援している。

例えば、AIデータ社の「AI孔明™」は、社内の技術や製品のデータを分析し、特許を提案して出願をサポートするサービスを提供している[87]。これにより、優れた技術を持ちながら知的財産としての活用が遅れている中小企業の支援を行っている。

また、生成AIを活用することで、特許文書の作成や類似特許の検索が高精度かつ迅速に行えるようになり、特許出願プロセスが大幅に効率化されている[50][52]。これにより、中小企業やスタートアップは限られたリソースでも効果的な特許戦略を構築できるようになった。

3.5 特定業界への影響

生成AIは、医療分野、教育分野、製造業など、特定業界にも大きな影響を与えている。これにより、各業界の競争優位性が向上し、新たなビジネスモデルが創出されている。

例えば、医療分野では、生成AIを活用して医療画像解析の新しいアルゴリズムを開発し、従来の手法では特定が難しかった病変を正確に診断することが可能となった[83]。また、教育分野では、生成AIを用いて個別学習プログラムを作成するシステムが開発され、特許出願において技術的な進歩性や新規性を強調する文書を生成している[83]。

製造業では、生成 AI を活用した特許調査が進み、効率化とコスト削減が実現されている[82][88]。これにより、製造業各社は知財戦略の強化を迫られる中で、生成 AI を活用することで競争力を維持・向上させている。

3.6 長期的な影響と課題

生成 AI の活用は、長期的な影響と課題も伴っている。イノベーションサイクルの加速、特許の質と価値の変化、法的・倫理的課題など、生成 AI の進化に伴い新たな課題が浮上している。

例えば、生成 AI による大量の特許出願が可能になることで、特許の質と価値に関する議論が生じる可能性がある[85][86]。量的な増加が必ずしも質的な向上につながるとは限らず、特許の評価基準や審査プロセスにも影響を与える可能性がある。

また、生成 AI を活用した特許出願の増加に伴い、著作権侵害や機密情報の流出などの法的・倫理的課題も浮上している[63][72]。特に、生成 AI が学習したデータに基づいて生成した内容が他者の知的財産権を侵害する可能性があるため、慎重な対応が求められている。

生成 AI の進化と普及に伴い、これらの課題に対処するための新たな規制やガイドラインの整備が必要となるだろう。企業は生成 AI を戦略的に活用し、知的財産権を効果的に保護・活用することで、競争優位性を確保していく必要がある。

1. [インテリジェンス活動 | 研究・技術開発 | レゾナック - Resonac](#)
2. [レゾナックのインテリジェンス活動の取り組み](#)
3. [生成 AI で手書き文章も含めた社内資料を活用する独自システム ...](#)
4. [AI と知的財産権。特許調査や著作権管理での活用事例を紹介](#)
5. [AI データ社、生成 AI 「AI 孔明™」が変える R&D・知財管理の ...](#)
6. [【知財生成 AI 活用例】特許出願依頼文の作成時間を AI で 90 ...](#)
7. [AI 関連技術に関する特許審査事例について | 経済産業省 特許庁](#)
8. [企業・ビジネスで使える生成 AI の活用事例 10 選！](#)
9. [【知財生成 AI 活用例】特許出願依頼文の作成時間を 90%近く ...](#)
10. [生成 AI | Lumada - 日立製作所](#)
11. [日立の「特許情報分析サービス」が、トヨタ自動車で運用開始](#)
12. [コカ・コーラ、「Create Real Magic」公開。AI 画像生成で ...](#)
13. [インテリジェンス活動 | 研究・技術開発 | レゾナック - Resonac](#)
14. [Resonac Develops an Original Generative AI, “Chat Resonac ...](#)
15. [レゾナックの生成 AI、グローバルでの特許網構築を加速へ | 日経 ...](#)
16. [レゾナックの生成 AI、グローバルでの特許網構築を加速へ](#)
17. [Intellectual Property Analysis/AI | R&D - Resonac](#)

18. [廣瀬侑子 on X: "レゾナックの生成 AI、グローバルでの特許網 ...](#)
19. [レゾナックのインテリジェンス活動の取り組み](#)
20. [知財 DX 知財 AI 導入 運用 – 技術情報協会](#)
21. [【知財生成 AI 活用例】特許出願依頼文の作成時間を AI で 90 ...](#)
22. [ChatGPT-4o を実装、AI 特許ツールがさらに進化！Tokkyo.Ai が ...](#)
23. [特許生成 AI で特許明細書の作成を支援します – Tokkyo.Ai](#)
24. [対談記事（12）：Tokkyo.Ai 株式会社、ChatGPT を利用した特許 ...](#)
25. [【知財生成 AI 活用例】特許出願依頼文の作成時間を 90%近く ...](#)
26. [特許生成 AI で特許明細書の作成を支援します – Tokkyo.Ai](#)
27. [ChatGPT-4o を実装、AI 特許ツールがさらに進化 ... – Tokkyo.Ai](#)
28. [ChatGPT-4o を実装、AI 特許ツールがさらに進化！Tokkyo.Ai が ...](#)
29. [【知財生成 AI 活用例】特許出願依頼文の作成時間を AI で 90 ...](#)
30. [リーガルテック、AI 特許検索機能を強化し研究者をサポート ...](#)
31. [【知財生成 AI 活用例】特許出願依頼文の作成時間を 90%近く ...](#)
32. [MASS パートナーズ法律事務所と AI による特許 ... – AI Samurai](#)
33. [知財業務の DX 化を検討されている方々に向けて、AI Samurai ...](#)
34. [AI Samurai は、MASS パートナーズ法律事務所と AI による特許 ...](#)
35. [特許検索タスクにおける AI システム導入の障壁 – 情報処理学会](#)
36. [MASS パートナーズ法律事務所と AI Samurai による特許調査 ...](#)
37. [AI で変革する企業の知的財産管理：最新の成功事例と実践ガイド](#)
38. [\(株\) AI Samurai は、MASS パートナーズ法律事務所と AI による特許 ...](#)
39. [AI と知的財産権。特許調査や著作権管理での活用事例を紹介](#)
40. [みんなの特許 | 特許調査支援システムの「株式会社 AI Samurai」](#)
41. [ChatGPT 搭載の新製品『AI Samurai ONE』の先行予約を開始 ...](#)
42. [特許調査への AI 導入、知財業務の DX 化を検討され ... – AI Samurai](#)
43. [AI データ社、生成 AI「AI 孔明™」が変える R&D・知財管理の ...](#)
44. [製造業向けの組織的な改善を支援する生成 AI「AI 孔明 ...](#)
45. [企業データの活用を革新、データと知財の融合で未来を創る ...](#)
46. [製薬・バイオ業界向け生成 AI「AI 孔明（TM）」が研究開発の新 ...](#)
47. [AI データ社、製造業 R&D・研究所向け ... – BizAldea](#)
48. [研究開発部門向け「AI 孔明×AI/DX フォーラム」2/20 開催](#)
49. [AI データ社、企業の経営意思決定をデータと AI 活用で超高速化し](#)

50. [AI データ社、AI が変える R&D・知財管理の未来！次世代知財戦略に ...](#)
51. [データ活用と知財戦略を取り込む AI データ社「AI 孔明&DX ...](#)
52. [AI データ社、生成 AI「AI 孔明 \(TM\)」が変える R&D・知財管理の ...](#)
53. [特許情報分析サービス」により知財情報を生かした経営・事業 ...](#)
54. [特許情報分析サービス：日立知財ソリューション](#)
55. [IP ランドスケープとは何かについて定義・方法・ツールを解説](#)
56. [特許情報提供サービス「Sharesearch」：日立知財 ...](#)
57. [特許情報分析サービスで知財活用を強化 日立製作所が開発](#)
58. [日立、「特許情報分析サービス」により知財情報を生かした ...](#)
59. [生成 AI | Lumada - 日立製作所](#)
60. [日立の「特許情報分析サービス」が、トヨタ自動車で運用開始](#)
61. [株式会社日立製作所グローバル知的財産統括本部様をはじめと ...](#)
62. [日立ならではの生成 AI 開発・活用のエキスパートを「GenAI ...](#)
63. [「Generative AI センター」の立ち上げから 1 年、日立幹部が ...](#)
64. [日立製作所、AI テキスト解析技術を活用した「特許情報分析 ...](#)
65. [生成 AI | Lumada - 日立製作所](#)
66. [巨額の賞金つき！ソフトバンクが月間 2,500 万円のアイデア ...](#)
67. [AI を徹底的に活用し、時代の先を行くリーダーに。「日経 ...](#)
68. [現場の課題が独自の発明につながる。ソフトバンクが目指す ...](#)
69. [生成 AI の力で変革する知的財産業務の未来 | arata_suehira - note](#)
70. [ソフトバンク G、数億の AI エージェント導入を構想 - OpenAI と ...](#)
71. [生成 AI の活用事例 | NTT データ・ソフトバンク・ベネッセなど ...](#)
72. [孫正義氏の特許大量出願が話題に、知財業界の生成 AI 活用を展望](#)
73. [孫正義氏、大量出願の深謀遠慮 読まれた記事～知財編](#)
74. [ソフトバンク副社長 今井が語る、生成 AI と自社データ活用事例](#)
75. [生成 AI と特許に関する徹底解説：出願、調査 - ainow](#)
76. [孫正義氏の特許大量出願が話題に、知財業界の生成 AI 活用を展望](#)
77. [孫正義氏が描く物流革命、「くるみ割り人形」で複数ロボット ...](#)
78. [ソフトバンク、AI 技術特許出願 1 万件宣言は本当か？](#)
79. [OpenAI とソフトバンク G が合弁会社設立、企業向け AI ...](#)
80. [孫正義氏、大量出願の深謀遠慮 読まれた記事～知財編](#)
81. [ChatGPT から見る特許戦略：OpenAI の技術的優位性を解読する](#)

82. [特許調査の費用軽減 | 生成 AI がもたらす効率化と省コスト化](#)
83. [生成 AI を活用した特許取得術: 新しいアイデアの具現化とその ...](#)
84. [AI データ社、生成 AI「AI 孔明™」が変える R&D・知財管理の ...](#)
85. [AI に関連する特許出願の概況 | InfoCom ニュースレター](#)
86. [ChatGPT から見る特許戦略 : OpenAI の技術的優位性を解読する](#)
87. [社内に眠る技術、生成 AI が特許出願を提案 AI データ](#)
88. [特許調査の費用軽減 | 生成 AI がもたらす効率化と省コスト化](#)